

【平成 27 年度第 1 四半期】学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等について

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

※四半期ごとに、経費負担又は職員の人的支援を要するものは計 3 件まで
土日祝日開催のものは、四半期ごとに 2 件まで

No.	テーマ	開催希望日時	経費負担	職員の人的支援
提案 10	われわれはどこに住めば良いのか？～地図を作り、読み、災害から身を守る～	平成 27 年 6 月 20 日（土）	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

※四半期ごとにおおむね 8 回（土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む）

No.	テーマ	開催希望日時	主催委員会等名	職員の人的支援
	なし			

注：学術フォーラム（提案 10）を除く。

(提案 10)

日本学術会議主催学術フォーラム「われわれはどこに住めば良いのか？
～地図を作り、読み、災害から身を守る～」の開催について

- 1 主催 日本学術会議
- 2 後援 日本地球惑星科学連合(予定)、地理学連携機構(予定)、
日本地図学会 (予定)
- 3 開催日時 平成 27 年 6 月 20 日(土)13 時～17 時
- 4 開催場所 日本学術会議講堂

5 開催趣旨

東日本大震災から 4 年が過ぎたが大きな痛みは続いており復興は道半ばである。平成 26 年に限っても 7 月には 7 名の命を奪った台風 8 号や 12 名の死者を出した台風 12 号などが来襲し、8 月には広島豪雨土砂災害によって 74 名の方がなくなった。9 月の御嶽山噴火では死者行方不明者の合計が 63 名に上るなど、平成 26 年も地球惑星科学に関連する自然現象によって多くの人命が失われた。

現代の科学技術をもってしても、こうした災害をもたらす豪雨・洪水や地形崩壊、地震や火山噴火などの地球惑星過程の制御は不可能であるが、それらの現象のメカニズムを知り、過去の災害に学べば被害の軽減は可能である。

特に、普段暮らしている地域の地球惑星科学的な災害リスクを知り、突発現象の前兆情報に基づいて適切に回避行動できるようにする事前の備えが重要である。地形図や地質図、あるいは災害地形図やハザードマップにはそのための貴重な情報が盛り込まれているが、必ずしも広く一般に普及しているとは言いがたい。

そこで、本フォーラムでは、どのような地図情報が利用可能であり、どのように災害リスクを読み取ればよいのか、そして広く市民が地図情報から適切に災害リスクを読み取れるようになり、また必要に応じて自分たちのハザードマップを作れるようになるには今の社会に何が欠けているのかを地球・人間圏学的視点から議論し、解き明かして社会に発信する。

6 次第(予定)

開会挨拶

氷見山幸夫（日本学術会議第三部会員、北海道教育大学教育学部教授）

講演

中田 節也（日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授）

「火山が噴火し、山が崩れ、洪水が堆積して日本列島が形作られた」

佐竹 健治（日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授）

「堆積物が教えてくれる大津波の痕跡」

春山 成子（日本学術会議連携会員、三重大学大学院生物資源学研究科教授）

「家や工場を建てる際には水害地形図で事前の検討を」

鈴木 康弘（日本学術会議連携会員、名古屋大学減災連携研究センター教授）

「古地図や地名が教えてくれる災害危険度」

小口 高（日本学術会議連携会員、東京大学空間情報科学研究センター
センター長・教授）

「地理情報と統計解析を用いた土砂災害の発生可能性の評価」

佃 榮吉（日本学術会議連携会員、独立行政法人産業技術総合研究所理事）

「災害リスク管理のための地質地盤情報の共有化—忘れられた国土情報の
管理・利用に向けて」

森田 喬（日本学術会議連携会員、法政大学デザイン工学部教授）

「分かりやすいハザードマップを作るための要件とは？」

寶 馨（日本学術会議連携会員、京都大学防災研究所教授）

「ハザードマップの展開：最新情報と普及の実際」

碓井 照子（日本学術会議連携会員、奈良大学名誉教授）

「学校の防災・減災教育で活用すべき地理空間情報と GIS—国土地理院の地
理院地図 Web サイトの活用」

和田 章（日本学術会議第三部会員、東京工業大学名誉教授）

「自助・共助・公助と災害地図リテラシー」

氷見山幸夫（日本学術会議第三部会員、北海道教育大学教育学部教授）

「災害地図リテラシー教育のこれから」

総合討論

司会

碓井 照子（日本学術会議連携会員、奈良大学名誉教授）

閉会挨拶

春山 成子（日本学術会議連携会員、三重大学大学院生物資源学研究科教授）

(提案 1 1)

日本学術会議主催学術フォーラム「科学研究における健全性の向上－研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインへの対応－」の開催について

1 主催 日本学術会議

2 開催日時 平成 27 年 2 月 5 日(木)14:00～17:30

3 開催場所 日本学術会議講堂

4 開催趣旨

平成 26 年 7 月、文部科学省より「研究活動における不正行為への対応等」に関する審議依頼を受け、日本学術会議では、「研究健全性問題検討分科会」を立ち上げた。同分科会では、上記依頼に対する回答を作成するための活動を行っており、平成 27 年 3 月に文部科学省に対して回答を提出予定であるが、回答を取りまとめる前に様々な分野の方々から幅広く意見を求めるため本フォーラムを企画する。

5 次 第 (予定)

14:00 開会挨拶

大西 隆 (日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大学学長)

14:10 挨拶

国大協関係者 (調整中)

14:15 挨拶

公大協代表者 (調整中)

14:20 挨拶

私大団体連代表者 (調整中)

14:25 文科省の審議依頼について

文部科学省学術政策局長又は人材政策課長 (調整中)

14:35 「オーサーシップと二重投稿」

小林 良彰 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法学部教授)

14:50 「研究データ等の保存に関するガイドライン」

家 泰弘 (日本学術会議連携会員、東京大学物性研究所教授)

15:20 「研究倫理教育に関する参照基準」

- 川畑 秀明（日本学術会議特任連携会員、慶應義塾大学文学部准教授）
- 15:35 「研究不正の防止及び対応に関する規程のモデル」
三木 浩一（日本学術会議第一部会員、慶應義塾大学大学院法務研究科教授）
- 16:05 休憩
- 16:20 総合討論
- 司会 小林 良彰（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法学部教授）
大西 隆（日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大学学長）
文部科学省関係者（調整中）
大竹 暁（独立行政法人科学技術振興機構理事）（調整中）
浅島 誠（日本学術会議連携会員、独立行政法人日本学術振興会理事）（調整中）
家 泰弘（日本学術会議連携会員、東京大学物性研究所教授）
岡田 清孝（日本学術会議連携会員、自然科学研究機構、龍谷大学特任教授）
- 川畑 秀明（日本学術会議特任連携会員、慶應義塾大学文学部准教授）
三木 浩一（日本学術会議第一部会員、慶應義塾大学大学院法務研究科教授）
- 17:25 閉会挨拶
井野瀬久美恵（日本学術会議副会長・第一部会員、甲南大学文学部教授）
- 17:30 閉会

(提案 1 2)

公開シンポジウム「これからの歯学・歯科医療における人材育成」の開催について

1. 主催：日本学術会議歯学委員会
2. 共催：日本歯学系学会協議会
3. 後援：日本歯科医師会、日本歯科医学会
4. 日時：平成 27 年 2 月 7 日（土）13：00～16：00
5. 場所：昭和大学旗の台キャンパス 16 号館 2 階講義室
（東京都品川区旗の台 1-5-8）
6. 委員会の開催：開催予定なし
7. 開催趣旨

平成 22 年 4 月、日本学術会議において「日本の展望」に関する提言がまとめられ、歯学委員会からは「歯学分野の展望」として、①10～20 年程度の中期的な学術の展望と課題、②グローバル化への対応、③社会のニーズへの対応、④これからの人材育成の 4 つの課題が挙げられている。とくに、社会のニーズへの対応とこれからの人材育成に関する報告の中で、歯学部教育の重要性が課題として触れられている。その内容は、「近年、歯科医師の資質向上の観点から国家試験の合格基準が引き上げられ、その結果、合格率が低下する中、国家試験合格が歯学部、歯科大学における卒前教育の目標となりつつある。歯科医師国家試験合格が歯科医師にとって生涯教育の出発点に過ぎないことを再認識し、大学は学生自らの思考能力を鍛える教育課程の開発に努力すべきである（歯学分野の展望、一部抜粋）。」というものである。さらに、報告書の中で、「社会構造、生活環境の変化により、歯科の疾病構造は著しく変化した。高齢者の増加は慢性の全身疾患を持つ歯科患者を増し、歯科医療における安全の確保の重要性は日増しに高まっている。患者の全身状態を的確に把握し、全身状態と歯科治療の相互的関わりを十分に考慮した上で、安全で安心な歯科治療を行いうる歯科医師の養成が急務であり、歯学部のカリキュラム改変を含めた対応が求められる。」との記述がある。事実、大学歯学部・歯科大学附属病院の

みならず歯科医院における外来患者の平均年齢は高まるばかりであり、歯科治療時の全身管理が必須となる中、歯科医学教育が社会のニーズに追いついていない現状がある。すなわち、超高齢社会における歯学・歯科医療の役割が増々高まる中、これからの歯科医療を支える歯科医師の育成は喫緊の課題と考えられる。そこで、今回はこれからの歯学・歯科医療における人材育成をテーマに基礎実習から臨床実習、さらには臨床研修との連携について理解を深めるとともに、日本の歯科医療の質を担保する上で極めて重要な歯科医師国家試験のあり方についても触れたいと考えている。

8. 次第

1) 開会挨拶

13:00～13:05

宮崎 隆*（日本学術会議連携会員、日本歯学系学会協議会理事長、昭和大学歯学部歯科理工学教室教授）

古谷野 潔*（日本学術会議第二部会員、九州大学大学院歯学研究院教授）

2) シンポジウム

司会：朝田 芳信*（日本学術会議連携会員、日本歯学系学会協議会副理事長、鶴見大学歯学部小児歯科学講座教授）

13:05～13:45「これからの歯科医療を支える歯科医師の育成について（仮題）」

座長 佐々木啓一*（日本学術会議連携会員、日本歯学系学会協議会副理事長、東北大学大学院歯学研究科長・教授）

窪木 拓男（岡山大学歯学部長・教授） 20分

中島 信也（日本歯科医師会常務理事） 20分

13:45～14:25 「歯学部教育と臨床研修の連携（仮題）」

座長 安井 利一（日本歯学系学会協議会常務理事、明海大学学長）

寺門 成真（文部科学省高等教育局医学教育課長） 20分

鳥山 佳則（厚生労働省医政局歯科保健課課長） 20分

14:25～14:40 質疑応答

14:50～15:30 「歯学における大学院教育・専門医教育のあり方（仮題）」

座長 木村 博人（日本歯学系学会協議会常務理事、弘前大学大学院医学研究科教授）

丹沢 秀樹*（日本学術会議第二部会員、特定非営利法人日本口腔科学会
理事長、千葉大学大学院医学研究院教授）
20分

永田 俊彦（特定非営利法人日本歯周病学会理事長、徳島大学大学院
ヘルスバイオサイエンス研究部教授） 20分

15：30～16：00 全体討論

3）閉会挨拶

佐々木啓一*（日本学術会議連携会員、日本歯学系学会協議会副理事長、
東北大学大学院歯学研究科長・教授）

9．関係部の承認有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催委員会委員）

(提案 13)

公開シンポジウム「日本における再生可能エネルギーの利用拡大に向けて」の開催について

1. 主 催：東日本大震災復興支援委員会 エネルギー供給問題検討分科会、
独立行政法人科学技術振興機構

2. 日 時：平成 27 年 2 月 12 日（木）13：00 ～ 17：45

3. 場 所：日本学術会議 講堂 外 3 室

4. 分科会等の開催：あり

5. 開催趣旨：

日本学術会議エネルギー供給問題検討分科会が 2014 年 9 月に公表した報告をもとに、世界で起こりつつあるエネルギー変革の現状を知り、我が国の再生可能エネルギーに関する現状の問題点・課題とその対策について、国の内外の有識者と議論を行い、理解を深める。

6. 次 第：

13:00～13:10 開会挨拶

大西 隆*（日本学術会議会長、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）

13:10～14:40 基調講演

13:10～13:40 (1) ドイツの再生可能エネルギーの現状と今後の政策

Shikibu Oishi（在日ドイツ大使館 経済通商政策担当上級専門官）

13:40～14:10 (2) 米国のエネルギー改革の現状と展望

Jeffrey A Miller（在日アメリカ大使館 エネルギー主席担当官 エネルギー省日本事務所代表）

14:10～14:40 (3) 再生可能エネルギーによる低炭素社会の実現にむけて

山田 興一（独立行政法人科学技術振興機構低炭素社会戦略センター副センター長）

(休憩：20 分)

15：00～17:40 パネルディスカッション

15:00～15:20 (1) イントロダクション

「エネルギー供給問題検討分科会報告の概要」

太田健一郎*（日本学術会議特任連携会員、横浜国立大学工学
研究院グリーン水素研究センター特任教授）

瀬川 浩司*（日本学術会議特任連携会員、東京大学先端科学
技術研究センター教授）

15:20～17:40 (2) パネルディスカッション

モデレータ

平沼 光*（日本学術会議特任連携会員、公益財団法人東京
財団研究員兼プロデューサー）

パネリスト

Shikibu Oishi（在日ドイツ大使館 経済通商政策担当上級専
門官）

Jeffrey A Miller（在日アメリカ大使館 エネルギー主席担当
官 エネルギー省日本事務所代表）

Paul Roberts（在日ニュージーランド大使館 一等書記官）

山田 興一（独立行政法人科学技術振興機構低炭素社会戦略
センター副センター長）

太田健一郎*（日本学術会議特任連携会員、横浜国立大学工学
研究院グリーン水素研究センター特任教授）

瀬川 浩司*（日本学術会議特任連携会員、東京大学先端科学
技術研究センター教授）

斉藤 哲夫（一般社団法人日本風力発電協会企画局長）

大崎 博之（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）

近藤 道雄（独立行政法人産業技術総合研究所福島再生エネ
ルギー研究所上席コーディネータ）

17:40～17:45 閉会挨拶

山田 興一（独立行政法人科学技術振興機構低炭素社会戦略
センター副センター長）

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案 1 4)

公開シンポジウム「第 6 回科学技術人材育成シンポジウム科学コミュニケーションを通じた社会との対話」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 土木工学・建築学委員会、機械工学委員会
2. 共 催：公益社団法人日本工学会 科学技術人材育成コンソーシアム
3. 後 援：文部科学省、経済産業省、国土交通省、科学技術振興機構、日本経済団体連合会、日本経済新聞社（いずれも申請予定）
4. 日 時：平成 27 年 2 月 14 日（土） 13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）
6. 分科会の開催：無

7. 趣 旨：

国民が科学技術を身近に感じ、強い関心を抱くような社会をつくり上げていくためには、研究者・技術者と社会との間の双方向のコミュニケーションを促進することなどにより、国民が科学技術に触れ、体験・学習できる多様な機会を提供することが必要である。今回のシンポジウムでは、よりよい社会を形成していくために、科学技術者が社会と双方向でどのようなコミュニケーションをいかにとっていくべきなのか、仕組みや科学技術者の求められる資質や人材育成について討論を行う。

8. 次 第

総合司会：

松村 暢彦（愛媛大学工学部教授、コンソーシアム幹事）

(1) 開会挨拶 13:00～13:10

有信 睦弘*（日本学術会議第三部会員、東京大学監事、コンソーシアム代表）

(2) 基調講演 13:10～13:50 「科学技術コミュニケーションの展開（仮）」

横山 広美（東京大学大学院理学系研究科准教授）

(3) 講演 13:50～15:10

1. 科学技術コミュニケーションの政策に関する情報提供

(講演者、講演題目未定)

2. 科学技術コミュニケーション活動の実態

(講演者、講演題目未定)

3. 世論からみた科学技術コミュニケーション

(講演者、講演題目未定)

4. 科学技術コミュニケーションの実践活動の報告

小峯 秀雄* (日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院教授)

(講演題目未定)

15:10～15:25 休憩

(4) パネル討論 15:25～16:55

「これからの科学技術コミュニケーションと人材育成 (仮)」

コーディネーター:

依田 照彦* (日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院創造理工学部教授、コンソーシアム副代表)

パネリスト:

横山 広美 (東京大学大学院理学系研究科准教授)

講演者 (未定)

(5) 閉会挨拶 16:55～17:00

松瀬 貢規 (明治大学工学部教授、公益社団法人日本工学会フェロー、コンソーシアム副代表)

9. 関係部の承認の有無: 第三部承認

(*印の講演者は、主催委員会委員)

(提案 15)

公開シンポジウム「神宮の森と東京オリンピック 2020 を考えるー東京の誇りとする珠玉の森とオリンピックの調和をめざしてー」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 環境学委員会 都市と自然と環境分科会
2. 日 時：平成 27 年 2 月 20 日（金） 13：30～16：30
3. 場 所：日本学術会議講堂
4. 共催：日本造園学会（予定）、日本都市計画学会（予定）
5. 分科会の開催：開催予定あり
6. 開催趣旨：

環境学委員会都市と自然と環境分科会では、都市における緑地の役割について継続的審議を行ってきており、平成 25 年には「明治神宮の森 100 年」のシンポジウムを開催し大きな反響をよんだ。大都市における人為によりつくられた森に、自然がよみがえり生物多様性の宝庫となり、文化的貢献を果たしていることを共有することができた。

現在、この神宮の森の外苑において東京オリンピックに向け、新国立競技場の建設が進められている。巨大な競技場の建設をめぐっては、この間、多くの議論が行われてきた。当該地域は、すぐれた景観を守り育てるためつくられた風致地区の第一号指定地であり、大正年間より 90 年の歳月をかけ風致の維持継承が行われてきた。新国立競技場の建設にあたっては、この風致地区の理念を踏まえて「周辺の景観に配慮する」ことが明文化されている。

このシンポジウムは、このような背景を踏まえて、現行案を前提とし、叡智を結集することにより、東京が誇りとする次世代の森を創りだしていくことができないかについて、広範な論議をおこなうことを目的とするものである。

論点は、第一に東京の都市遺産を水と緑の構造、第二に現行案の都市計画的な位置づけと内容、第三に現行案が施工された場合の、緑地・風・熱環境の変化についての地球シュミレーター分析（1 年をかけて実施、論文は学会発表済み）等に基づき、問題点と課題を明らかにし、東京の遺産としての神宮の森と 2020 オリンピックの調和を目指すものである。

7. 次第

挨拶：石川 幹子*（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）

第一部：東京の遺産としての神宮の森とオリンピック2020

1. 「東京オリンピック1960は、何を目指し、何を残したのか。」

池邊このみ*（日本学術会議連携会員、千葉大学大学院園芸学
科教授）

2. 「明治神宮内苑・外苑の歴史的意義と今日における意義」

進士五十八*（日本学術会議連携会員、東京農業大学名誉教授）

3. 「『水都東京』の構造と課題」

池田 駿介*（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）

4. 「東京のサウンドスケープの過去・現在・未来」

鳥越けい子*（日本学術会議連携会員、青山学院大学総合文化政策学
部教授）

5. 「ビッグプロジェクトのプロセス・プランニング」

村上 暁信*（日本学術会議連携会員、筑波大学システム情報系
准教授）

6. 「新国立競技場（計画案）と『緑地・熱・風環境のシミュレーション』」

高橋 桂子（日本学術会議第三部会員、独立行政法人海洋研
究開発機構地球基盤センター長）

第二部 総合討論（パネルディスカッション）

コーディネーター：

石川 幹子*（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（*印の講演者等は、主催分科会委員）

(提案 16)

公開シンポジウム「第61回構造工学シンポジウム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 土木工学・建築学委員会
2. 共 催：公益社団法人土木学会、一般社団法人日本建築学会
3. 日 時：平成27年4月25日（土）～26日（日）
4. 場 所：
東京工業大学 大岡山キャンパス（東京都目黒区大岡山2-12-1）
5. 分科会の開催：なし
6. 開催趣旨：
構造工学シンポジウムでは、主として土木構造・建築構造物にかかわるすべての工学技術について、目的・方法・結論等の明記された、理論的または実証的な研究論文、あるいは新しい知見を含み学術的に価値の高い、特色のある資料・調査・計画・実験・施工等、構造工学の発展に寄与すると考えられる論文の募集を行う。投稿論文のうち、査読を通過した論文の発表講演と討議、特別講演、パネルディスカッションをこのシンポジウムで行う。
パネルディスカッションは、「超過外力に対する構造設計の方向性と課題」と題して議論したいと考える。構造工学シンポジウムでは、これまで、構造物の安全性に関する設計法、理論解析および実験的研究が数多く報告されてきた。近年、災害の激甚化に伴って、巨大地震や大津波などの超過外力を想定した構造物の設計が不可欠であるとの認識に至っている。一方、都市部への人口集密化に伴い、これらの激甚災害が発生した場合には、都市機能の低下軽減やハード対策の限界を見据えたソフト対策を同時に考慮する必要がある。このような超過外力に対する構造設計の適用限界や構造設計技術の現状と課題を再確認するとともに今後の構造工学の高度化に資するべく、パネルディスカッションを開催する。特別講演および基調講演は、このテーマに準じた内容を予定している。
7. 次 第：
（1）一般講演

(2) パネルディスカッションおよび特別講演

司会 園田 佳巨(土木学会構造工学論文集編集小委員会委員長、九州大学教授)

【4月25日】

○ 一般講演 (9:00～18:00)

○ 開会式 (15:00～15:10)

挨拶 依田 照彦*(日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院創造
理工学部教授)

○ 特別講演 (15:10～16:10)

佐倉 潔 (三菱航空機技術本部副本部長)

○ パネルディスカッション (16:15～18:05)

タイトル 「超過外力に対する構造設計の方向性と課題」

パネリスト基調講演

川島 一彦 (東京工業大学名誉教授)

室野 剛隆 (鉄道総合技術研究所)

林康 裕 (京都大学教授)

前野 敏元 (竹中工務店設計部構造担当部長)

○ 全体総括 (18:05～18:15)

和田 章*(日本学術会議第三部会員、東京工業大学名誉教授)

【4月26日】

○ 一般講演 (9:00～18:00)

プログラムは投稿論文の査読後に決定。

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者は、主催委員会委員)